

中国高級軍人には国際常識が必要だ

漢和防務評論 20121120

平可夫

今年 9 月、中国の梁光烈国防部長は 7 年ぶりにインドを訪問した。これは言わば両国の軍事交流にとって重大事件であった。小さな博愛精神を発揮しないと大きな計画が狂うのか！（訳者注：中国の諺） インド空軍機が梁光烈大將を乗せてムンバイからニューデリーに運航したときに、パイロット一人一人に 900 ドルのチップを渡した。インドのマスメディア及び空軍は大騒ぎとなった。抗議すべきだと高言する者や”スパイ論”まで浮上した。この訪問は實際上多くの不信感を残して終了した。

同大將の訪問終了後、インドのマスメディアは”中国は 2017 年にインドに宣戦布告をする準備をしている”と大々的に報道した。

KDR の認識では、軍内にチップの習慣などあり得ない。まして国防部長の海外訪問である。如何なる国家であろうとも、特に NATO 国家の軍隊は規律厳正であり、命令及び法律に従って物事を行っている。”チップを渡す”など聞いたことが無い。中国の高級軍人は、この程度の国際常識すら知らないのではあるまいか？外事局及び式典局の官員は同行していなかったのだろうか？

逆に”スパイ論”は大げさ過ぎる。国防部長が自らスパイを募集することはいし、たとえ募集したとしても、スパイの世界は、一人一人を十分調査の上で募集するのが常識だ。二人一緒に賄賂を配ってどうして募集できるのか？

これらのことから、中国軍人は外国軍の慣習などを知らず、最低の外交儀礼さえ知らないのだ。外国軍の戦略、戦術の研究などは、どのようにやっているのだろうか？”チップ”の段階で留まっているのだろうか？

その一、軍の法規、命令を逸脱する”金銭行為”は、賄賂である。大將の地位にある国防部長がせいぜい佐官級のパイロットに対して行った行為であったが、後者は、直ちに空軍総司令部に報告した。したがって中国とインドの法制度に基本的に違いがあることが分かる。

インド空軍について述べると、実に感心したのは、2011 年になっても空軍参謀長、国防部長が乗っている車は 1950 年にインドで生産された”大使ブランド”の乗用車であった。同年インド国産の TATA 型小型車への換装が開始されたよ

うであるが。

KDR の読者は記憶しているはずであるが、本誌記者がインド空軍司令部を取材したときに見たものは、参謀長事務室及び廊下で使用している空調機は扇風機であった。夏のニューデリーは気温が 40 度にもなる。

” あなた方は最新鋭の SU-30MKI を持っているのに、インド空軍では軍人の所有する車に何か制限を設けているのか？” と聞いたところ、
” 制限はない、パイロットは空中で作戦するのであって、地上で作戦するのではない” 空軍連絡官はこのように返答した。

日本の観艦式に参加した際は、12 時間の行程であるのに水や食物の接待はなかった。日本の防衛省に尋ねたところ、関連法規もなく予算もないとの返答があった。

このように現在追及すべきなのは、梁大将の 1800 ドルはどこから出たのか？である。

周知の通り、西側では、たとえ小さな会社であっても、1 ドルでも、1800 ドルでも、1 億ドルの入金でも、出張手続きでも同じである。全て領収証、予算、関連法規が必要だ。

その二、予算は如何に編成されているのだろうか。想像出来るが、中国軍の予算には隠れた部分が確かに存在する。

その三、これは最も重要だ。軍の指導者が中国空軍専用機に搭乗した時、やはりチップを払うのだろうか？KDR が肯定できることは：未だに空軍参謀長が扇風機を使用しているインド空軍には、このような習慣はあり得ないということである。もしあったとしたら、国会で大問題になる。

この問題は、別の重大な問題を引き出すことになる。すなわち中国軍内に普く存在する贈収賄の問題である。下級官員はパイロットに賄賂は贈らない、面子の問題がないから。(中華文化の考え方)

最後の問題は、1800 ドルのチップから見るインドと中国のソフトパワーの違いである。SU-30MKI と SU-30MKK 戦闘機の技術水準の差については本誌が何

度も報道したので多くの説明は省略する。軍人の資質について述べると、梁大将の見識は、国防部長自身の見識を示すだけでなく、一つの軍事代表団の見識を示す。基本的に確定できることは、チップを渡すアイデアは、梁個人の考えではなく、某高級参謀の思いつきであったであろう。中国軍人の階級が 2 名のインド空軍パイロットの階級よりもすべて上だった可能性がある。

一般的状況下で、記念品として軍人はどんなものを贈るだろうか。本誌の記者は米国空軍から” 米国空軍” の文字が書かれた筆記具を贈られた；日本の各自衛隊は本誌記者に各種自衛隊記念メダル等を贈った。スイスの将校は、スイスの軍刀を贈る。**KDR** は、これは国際的な慣例に従うべきであり、それで十分であると考ええる。

梁大将の事件は、中国国防部長の海外訪問時に専用機が無く、その間部隊の指揮管制能力が無いことを示している。**NATO** 国家の国防部長は、軍政の最高執行機関であり、外国訪問間、必要な時期に三軍に号令できる。したがって米国国防部長の専用機は、**E-4B** であり、第 55 団に属し空中給油能力、電磁パルス対抗能力も備え、高周波、長波全ての通信能力を具備している。機体の前方上部に衛星通信アンテナがある。超長波(**VLF**)アンテナが機体の尾部にあり、戦略核潜水艦部隊との通信に用いられる。米国国防部長がアフガン等を訪問したときは、**E-4B** に搭乗した。

以上